

資料紹介 村岡典嗣「Herakleitos」

著者	本村 昌文
雑誌名	東北大学史料館紀要
巻	14
ページ	21-34
発行年	2019-03-15
URL	http://hdl.handle.net/10097/00126873

〈資料紹介〉村岡典嗣「Herakleitos」

本 村 昌 文

1. 解説

村岡典嗣（明治17年・1884～昭和21年・1946）は、日本思想史という学問分野の創始者の一人として知られている。早稲田大学を卒業後、日独郵報社に勤務しつつ、現在にまで読み継がれる『本居宣長』を執筆・刊行（明治44年・1911）、その後、早稲田大学、広島高等師範学校を経て、大正13年（1924）4月25日に東北帝国大学法文学部教授に着任し、文化史学講座第1講座担任となった。

早稲田大学在学時に、村岡は宗教哲学者である波多野精一に学び、西洋哲学の勉強に励んでいた（1）。また、彼の研究方法にアウグスト・ベック、新カント派のヴィンデルバンドなどの西洋哲学の知見が活かされていることもこれまでの研究で指摘されている（2）。しかし、実際に彼が西洋哲学についていかなる理解を示していたのかという具体的な内実については、ほとんど研究が進んでいないのが実状である。

ところで、東北大学史料館所蔵の「村岡典嗣文書」には、村岡の西洋哲学に関する知見をうかがうことができる以下の資料が残されている。

表1 村岡典嗣文書所収の古代ギリシア哲学関係資料

タイトル	作成年代	番号	備考
「Herakleitos の研究」	明治41年・1908	村岡Ⅱ・1-1	
「〔ギリシア哲学関係原稿〕」	大正5年・1916	村岡Ⅱ・1-2	
「Herakleitos」	大正5年・1916	村岡Ⅱ・1-3	
「Herakleitos ノ哲学ノ研究」	作成年不明	村岡Ⅱ・1-4	
「Plato ノ Staat ノ研究」	大正10年・1921	村岡Ⅰ-6	広島高等師範学校の講義ノート

上記の資料のうち、「〔ギリシア哲学関係原稿〕」には、「Thules の学説とその歴史的背景」「Parmenidis の sein の思想について」「Herakleitos の coincidentia.oppoitorum の思想」「Herakleitos の研究」という4つの原稿が1冊のノートに書かれている。この資料に加え、ほかの4つの資料のタイトルをみると、村岡が「Herakleitos」（ヘラクレイトス）について研究を進めていたことがわかる。しかし、以上の諸資料は、村岡の論考を集めた岩波書店の『日本思想史研究』（全4冊）、またこの『日本思想史研究』に未収録であった論考や講義ノートを集めた創文社の『村岡典嗣著作集』（全5冊）には収録されていないため、これまで光が当てられることがなかった。

ヘラクレイトスは紀元前500年頃の初期ギリシアの哲学者である。万物の根源を「火」とし、万物流転（パンタ・レイ）の思想を説いた人物として解釈されてきた人物である。村岡は『本居宣長』のなかで「文献学」の概念を説明する箇所において、「文献学」が「取り扱ふ内容の広汎なところから、Polyhistorie（博覧）と同一視する見解がある。併し、そは何等一定の統一なくして、決して学問的概念と見ることを得ぬ。単なる多知多識が、学問でないことは、ヘラク

レイトスも已に言つた」(前田勉校訂『増補本居宣長2』24頁、平凡社、2006年)というように、ヘラクレイトスの主張をもとに「文献学」と「博覧」の相違を示そうとしている。しかし、『本居宣長』のなかでヘラクレイトスの名が出るのはこの箇所のみであり、どれほどの思想的な影響を受けたのかについては疑問の余地がある。ただし、村岡が『本居宣長』を執筆し、その後、国学に関する重要な論考を発表していく同時期に、ヘラクレイトスの研究を進めていたことが、上記の資料の存在から明らかであり、さらなる検討を要すると考えられる。

では、村岡の研究にヘラクレイトスの思想の影響はほとんどみられないのであろうか。この点について、筆者が注目したいのは1943年3月に執筆された「日本精神論」という論文において、「国体」と「世界文化の摂取」の関係について述べた以下の箇所である。

終わりにこの両者の交渉と関係とについて一瞥しよう。両者は一は求心的、一は遠心的であつて、一応相反する傾向を有しないとしない。実際我国の文化の歴史に於いて、両者が或は保守主義と進歩主義との対立となつて相争つたこともあるし、或は極端な排外主義や排外主義となつて時代を風靡したこともあつた。……それにもかかはらず歴史の教へるところは、部分的にもまた全体的にも、両者のいみじき調和といふことであつた。くはしくは一見反対せる両者が、相互に高次の発展の為の契機となつて、やがて調和してゆくのであつた。吾人は希臘の古哲人が道破した真理、即ち所謂反対の調和の最も好い例を、こゝに見得る感がある。(3)

村岡は日本精神の特色を形成する「国体」と「世界文化の摂取」は、一見すると相反する性質を有しながら、それが調和していくと捉えている。その上で、村岡はこの関係を「希臘の古哲人が道破した真理、即ち所謂反対の調和」と重ね合わせて理解しているのである。この「反対の調和」という考え方を提示した「希臘の古哲人」こそ、実はヘラクレイトスなのである。

「反対の調和」という表現は、「日本精神論」という論文だけでなく、村岡の晩年に書かれた論考にしばしばみえるものである。例えば、宣長と徂徠学との関係を述べた「徂徠学と宣長学との関係」と題された論文(1945年)には、「一方には日本主義、他方には中華主義の、いづれも純粹なる代表者として、まさしく相背反せるやに見える、二人の学問思想の間に存在したかゝる関係は、歴史に於いて実現される、反対の調和といふ真理の一例として、また興味あるものとするに足りよう」(4)、敗戦後に東北帝国大学法文学部で行った講演をまとめた「日本精神を論ず」には、「国体」と「世界文化の摂取」について、「日本精神論」の論文と同様に「我歴史はむしろ両者の関係の、いみじき調和をこそ示したと言得よう」(4)と記している。前田勉氏は国学を徂徠学に対置する通説的な理解に対し、「村岡は、むしろ「正反対」の徂徠学の古文辞学が「国学に多大の寄与をなした」ことを高く評価した。こうした思想の表面的な「正反対」に幻惑されず、その底に潜む関係性を見抜き、宣長が徂徠を学んだように、思想家たちが己の敵から多くのことを学んでいたことを、村岡は看破したのである」(5)と述べているが、村岡をして正反対の事象にある関係性を捉えせしめたのは、若きときに研究に励んだヘラクレイトスの「反対の調和」という考え方であつたのではないか。

以上のように考えると、村岡の研究方法や視座にはヘラクレイトスの思想から少なからず影響があるといえる。その意味では、東北大学史料館の「村岡典嗣文書」に残されたヘラクレイ

トス関係の資料を検討していくことは、村岡の学問的基盤を明らかにする上で必要な作業となろう。

上記の試みの一環として、本稿では「Herakleitos」(村岡Ⅱ・1-3)の資料翻刻を行う。形態は横罫ノート、タテ205ミリメートル×ヨコ170ミリメートル、全96頁である。内題は「Herakleitos 研究」になっており、この内題に続けて「大正五年十二月初メヨリ~~~~~十七日脱稿)」と記されており、このノートの作成時期を知ることができる。全体は、以下の4章で構成されている。

- 第一章 全汎的概説
- 第二章 重要ナル思想トソノ分析
- 第三章 彼ノ思想ノ relation とソノ Wesen
- 第四章 Zeller 等ノ見解ノ批評ト結論

原稿は日本語、英語、ドイツ語、ギリシア語を混ぜて書かれており、村岡が西洋哲学に関する論考を執筆するときの姿勢をうかがうことができる。なお、第四章で村岡が批判的に検討している「Zeller」とは、エドゥアルト・ツェラー(Eduard Zeller、1814年～1908年)のことである。ツェラーは、『ギリシア人の哲学』(Philosophie der Griechen、1844年～1852年)、『ギリシア哲学史綱要』(Grundriss der Geshichte der griechischen Phiosophie、1883年)などを著したドイツの哲学史家である(6)。第四章では、ツェラーの『ギリシア人の哲学』からの引用もあり、村岡がツェラーの学説を意識していたことがわかる。

この原稿に密接な関係を有する資料が、先の表1中の「〔ギリシア哲学関係原稿〕」(村岡Ⅱ・1-2)のノートに書かれた「Herakleitos の研究」、そして「Herakleitos ノ哲学ノ研究」(村岡Ⅱ・1-4)である。詳細は別稿に譲るが、以下簡単に説明をしておきたい。

「〔ギリシア哲学関係原稿〕」(村岡Ⅱ・1-2)のノートに書かれた「Herakleitos の研究」には「大正五年十二月十八日第二稿」と記されており、内容の構成は以下のようになっている。

- 第一、Introduction
- 第二、主要ナル思想トソノ分析
- 第三、ソノ思想ノ関係ト wesentlich ノ思想
- 第四、Zeller トソノ批評

執筆の時期と内容構成をみると、この「Herakleitos の研究」は、上述の「Herakleitos」(村岡Ⅱ・1-3)の完成後、すぐに書き直しを行った原稿と推測できる。

「Herakleitos ノ哲学ノ研究」(村岡Ⅱ・1-4)には執筆時期は書かれていないが、この資料の構成も、

- 第一、Introduction
- 第二、彼ノ哲学ニ於ケル主要ナル思想トソノ分析
- 第三、主要ナル思想ノ内在的關係ト彼ノ哲学ノ関係ト Wesen ノ思想

第四、別種ノ解釈 (Zeller, Baumken) ノ批評

となっており、先述の二つの資料とほぼ同様である。この資料と「〔ギリシア哲学関係原稿〕」(村岡Ⅱ・1-2)のノートに書かれた「Herakleitosの研究」および「Herakleitos」(村岡Ⅱ・1-3)との関係は今後さらに検討を要するが、現時点では「Herakleitosノ哲学ノ研究」(村岡Ⅱ・1-4)が最終稿ではないかと考えている。いずれにせよ、この三つの資料を翻刻し、改稿の過程を検討することによって、村岡の西洋哲学、特に古代ギリシア哲学の理解について新たな知見を見いだすことが可能となるであろう(7)。

それでは、「Herakleitos」(村岡Ⅱ・1-3)を執筆した村岡の目的は何であったのだろうか。池上隆史氏の作成した詳細な村岡の年譜をみると、大正6年1月20日の条には、「哲学研究会第十一回例会」が恩賜会館楼上で午後3時から開催されたことが記され、さらに以下のような資料が引用されている。

講師村岡典嗣氏のヘーラクレイトスの研究の発表あり。大要を記せば、第一の序論に於て彼の哲学の輪郭を述べられ、第二の『主要なる思想と其分析』に於て之を流転、火及び反対の調和の三に分け更に彼の断片に基きて周密なる分析を施さる第三の『それらの内在的關係と彼の哲学の Wesen』に至りては反対の調和の思想を以て其本質となし、次の三点に就て之を論証せらる。……第四の『Zeller u. Baumker の説の批評』に至りては、流動を重視せし者として後者並に Windelband 火を重視せし者として後者並びに Gomperz を挙げて精細に公平なる批評を下さる。全体として Monographical Study にして極めて価値多き研究なりき。(8)

この資料は『早稲田学報』214号(1917年2月)に掲載されているものであるが、ここで村岡が「哲学研究会第十一回例会」においてヘラクレイトスの研究発表を行ったこと、その内容構成は「序論、主要なる思想と其分析、それらの内在的關係と彼の哲学の Wissen、Zeller u. Baumker の説の批評」であったことがわかる。この構成と章タイトルは、ほぼ「Herakleitosノ哲学ノ研究」(村岡Ⅱ・1-4)と同様である。以上の記述をふまえると、ヘラクレイトスに関する上述の3つの資料は、この哲学研究会での研究発表の原稿類といえよう。なお、村岡は大正4年(1915)4月から早稲田大学嘱託講師となっており、「哲学研究会」は10月23日に北吟吉(1885年～1961年、北一輝の実弟)、哲学専攻の学生とともに立ち上げたものである(9)。

「Herakleitos」(村岡Ⅱ・1-3)の内容は以下の翻刻を参照されたいが、特に注意しておきたいことは、村岡がヘラクレイトスの思想について、以下のように述べている点である。

自然人事ニワタリテ相対シ、相反対セル動的モシクハ静的ノ現象ノ調和帰一ヲトキ、是ニ gesetz ヲ認メタル思想ハ、彼ニ於イテ最モ有力ナル思想ナリ。

村岡は相反する現象に調和をみてとり、そこに「gesetz」(法則)を認めたところにヘラクレイトスの思想の最も重要なところであると理解しているのである。さらに、

後世彼ノ説ノ主ナ思想ハ万物流転ノ説ト考ヘラレテキル傾向カアル。而シテ近世ノ主ナル史家ノウチニモ自然コノ立場ニタツテ彼ヲ解釈シテキルモノガアル。Windelband ノ如キモ之テアルトシ……

というように、ヘラクレイトスの思想は、後世には万物流転の説が主要なものと考えられており、ヴィンデルバンドもその一人として捉えている。その上で、村岡はヴィンデルバンドとは異なる立場－反対の調和をヘラクレイトスの主要な思想と捉える立場－として、イギリスの文献学者であるジョン・バーネット（Jhon Burnet、1863年～1928年）、ドイツの哲学者であるオイゲン・キューネマン（Eugen Kühnemann、1868年～1946年）を挙げている。これまでの研究では、村岡に影響を与えた人物としてヴィンデルバンドが挙げられてきたが、この資料ではヴィンデルバンドは村岡とは異なる立場としてむしろ斥けられている。そして、従来の研究ではまったく知られることのなかったジョン・バーネット、オイゲン・キューネマンが村岡に影響を与えた人物として浮かび上がってくる。

上記のことは本資料の価値を示す一端にすぎない。村岡が読んだヘラクレイトスの資料、参考とした先行研究などをほかの未公刊資料とあわせて丹念に探究していくことで、村岡の思想的な基盤、さらには近代日本の古代ギリシア哲学理解の一端を掘り起こしていくことができるだろう。

註

- (1) 安酸敏眞「村岡典嗣と波多野精－饗応する二つの「学問的精神」－」（『北海学園大学人文論集』39、2008年）。
- (2) 原田隆吉「村岡典嗣」（永原慶二ほか編『日本の歴史家』、日本評論社、1976年）、前田勉「解説」（村岡典嗣著・前田勉校訂『新編日本思想史研究－村岡典嗣論文選－』、平凡社、2004年）。
- (3) 「日本精神論」（1943年、『日本思想史研究』4〈岩波書店、1949年〉所収）。
- (4) 「徂徠学と宣長学との関係」（『日本思想史研究』3〈岩波書店、1948年〉所収）。
- (5) 前田勉「解説」（村岡典嗣著・前田勉校訂『新編日本思想史研究－村岡典嗣論文選－』、平凡社、2004年）。
- (6) ツェラーの『ギリシア哲学史綱要』は、大谷長より翻訳され、1955年に未来社より刊行されている。
- (7) こうした試みの一環として、筆者は村岡のプラトンの『国家』についての理解を検討したことがある（拙稿「村岡典嗣「PlatoノStaatノ研究」に関する一考察」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』41号、2016年）。
- (8) 池上隆史「村岡典嗣年譜（四）」（『日本思想史研究』38、2006年）。
- (9) 同「村岡典嗣年譜（三）」（『日本思想史研究』37、2005年）。

本稿の作成にあたり、ドイツの哲学史関係の資料などについて、鈴木亮三氏（岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科・客員研究員）に多くの助言をいただいた。あらためてこの場で謝意を表したい。なお、本稿は科研費・基盤研究C「帝国大学における研究者の知的基盤に関する研究」（研究代表者・吉葉恭行 課題番号：16K04518）の成果の一部である。

2、資料紹介

【凡例】

- 一 本翻刻は、東北大学史料館・村岡典嗣文書所収本を底本とするものである。
- 一 漢字は原則として新字体に改め、仮名遣い・送りがな・人名は底本通りとした。
- 一 合字は現行の仮名に直した。
- 一 必要に応じて句読点を補った。
- 一 疑義のある箇所には〔ママ〕を付し、欠損・判読不能の場所は□で示した。
- 一 資料中の訂正箇所（朱書による訂正や転倒付など）は、訂正された記述のみを翻刻し、必要な情報がある場合には末尾に注記した。

【資料紹介】

Herakleitos 研究（大正五年十二月初メヨリ~~~~~十七日脱稿）

第一章 全汎的概観（2——

第二章 重要ナル思想トソノ分析（7——

第三章 彼ノ思想ノ relation とソノ Wesen（32——

第四章 Zeller 等ノ見解ノ批評ト結論（41——

第一章 Herakleitos ノ思想ノ全汎的概観

1) 今日 Herakleitos ノ哲学ノ data トシテ吾人ノ有スルモノハ 1、Hauptquellen トシテハ彼ノ著書ノ断片 2、nebenquellen トシテハ上代哲学者及ヒ doxographer ノ諸著ニイテタル彼ニ関スル passages ナリ。Fragments ハ Plato、Aristoteles、Theophratos ハシメ紀元約五世紀比マテノ Stoiker、Eklektiker、Neu-platoniker、kirchenlihelr 等ノ諸書ニ引用セラレタル（大抵重出的ニ）彼ノ quation ニシテ 初メテ Schleiermacher ニヨリテ集メラレ、ソノ後新発見ノ source アリテ補ハレ、今日ニ於イテハ、Bywater, Heracliti Ephesii Reli quiae、1877. ニハ130及ビ spurious F.8合計138. Diels:Fragmente der Vorsokratiker (1903) ニハ126及ビ zweifelhaft, falsche, u. gefälschte F.13合計139ヲ載ス。而シテ両者ノ順序ハ互ニ異リ、Bywater ハ Herak. ノ著書ノ区分ト称セラル、モノ (the universe、political、theological) ニヨリテ、之ヲ排列セリ。Diels ハ主トシテ出典ノ著者ニヨリマトメ、各著者ノ名ノ alphabet ノ順序ニテ排列セリ。

2) 彼ノ Fragment ヲ読ミ来リテ、吾人ノ第一ニ感ズルコトハ、ソノ思想ノ範囲ノ（之ヲ Milesian、ノ predecessors ハモトヨリ Parmenides マタ他ノ Vorsokratiker ニ比レテモ）極メテ廣ク、Kosmologie (Weltentstehung, Die specielle Physik, Weltgebäude)、Anthropologie (Der Mensch, sein Erkennen und Thun.) ノ凡テノ方面ニ渡レリ。而シテカクノ如ク natural & spiritual、life ニワタリテ comprehensive generalization ヲ試ミタル点、第二ニ或ハ真理ハタトヒ常ニ存在ストイヘトモ、世人ハソヲ初メテキク時モキカサル以前ノ如ク之ヲ了解セストイヒ、或ハ多識ハ真ノ了解力ヲ与ヘス、Hesiod ヤ Pythagoras ヤ Xenophanes ヤ Hekataios ハ多識ノ人ノミトイヒシ如ク、当時ノ一般人士又ハ学者ヲサヘノ、シリテ、自尊自信、我ノミヒトリ真理ヲ躰得シエタリトセシ態度、而シテカクノ如キ態度ト相俟ツテソノ思想的傾向ノ intuitive ニシ

テ、又熱烈ナリシコトナリ。Nietsche ハカレト Parmenides トヲ比較シテ、両者トモニ真理ノ prophet ナリシガ、Parmenides ノ氷ヨリナリシ如キ論理ノ冷サヲ有セシニ、Her. ハ aus Feuer geformt トモイフヘキ Intuition ノ思想家ニシテ、ソノ態度タルヤ der Stolz und die Majestät der Wahrheit ヲ体现シタモノト評シタ。

第二章 彼ノ哲学ニ於ケル主要ナル思想トソノ分析

彼ノ Fragment ヨリ帰納的ニ考ヘ来レバ、彼ノ哲学ニオケル主ナル思想トシテ、吾人ハ Feuer、Flux、Harmony of opposites ノ三者ヲ数ヘウ。

I .Fire

a／万物ノ Urstoff ヲ fire ナリトスルハ、彼ノ思想ノ全汎ニワタリテ存ス。fire 及ビ fire ノ変化セルモノ（day、smoke、soul、sun）ナトニ関シテ説ケル Fragment ハ約17、Aristoteles、Arius 等ノ passages 又之ヲ説ケル。

b／彼ノ Fragment ヲシルト22“All things are exchanged for fire, & fire for all things,……”ノ如ク、fire ヲ以テ万物ノ transformation ノ subject ト考ヘシ思想アリ。而シテ Aristoteles ノ metaph. Hippasos of Metapontum & Herak of E. call fire the first cause. Herm “Fire is the first principle of all things” 等ノ passages 又 Aetius ノ passage アリ。コレヲヨリシテ、Her. ガ fire ヲ urstoff ト考ヘシコトハ明カナリ。

c／而シテコノ fire ハ之ヲ miletos 派在来ノ urstoff ト比較スルニ、

1、symbolic ノ意味ニアラスシテ、real fire ナルコト（real air、real water ノ如ク）之ヲ symbolic ト解セシハ、Teichmuller ノ陥リシ誤ナリ。真ニ燃エ熱シテハ冷ユル fire ナリシコトハ Fragment ニソノ証多シ。

2、万物ノ change ノ source ニシテ end ナルコト、従ツテ itself ニ動力ヲ有ス hylozoism。

Anaximander ハ万物ノトア・アパイロンニ始マリ、トアパイロンニ終ライヒ、Anaximenes ハ air ニツイテ同様ニイヘリ。“All things are exanged for fire, & fire for all things” (22) “The transformation of fire” (21) Fire is want & satiety (24) 等ニ徴スヘシ。

3、persistency

Air ソノモノ、rarefaction & condensation ヲ以テ万物ノ process ヲトケル。Anaximenes ノ思想ニモ又比較的 qualitative ノ change ヲトキシ、Anaximenes ニモソノトアパイロンノ indestructible & immortal (Aritolb phys. iii) ヲ考ヘ、多クノ史家カ言ヒシ如ク underlying substance ナリシコトニ於テコノ性質アリ。

コノ点ニ於イテハ、Herak ノ思想ハ、I：ニオイテ、已ニ之ヲ肯定セルコト明ケシ。ケタシ Urstoff ノ transformation トイフハ persistency of underlying substance ヲ否定シテハ考ヘウヘカラサレハ也。downward ヨリ upward ニイタル逆路断絶スレハ也。

然ルニサラニニツノ肯定否定ノ点ニ於イテ、miletos 派ノ思想ト異ルアリ。

肯定ノ方面ニ於イテハ、Ordnung トシテノ fire ノ permanency ナリ。之 harmony of O ニ於イテ説クヘシ。否定ノ方面ニ於イテハ、fire ノ exchange ヲ説ケルコトナリ。exchange ハ qualitative permanency テフ idea ト相容レズ。之 change ニ於イテ説クヘシ。

4、Divine character of Urstoff

Thales ハ水ヲ divine ナリト考ヘシモノ、如シ。Anaximender ニ至ツテハ明カニ τοαπειρον

ノ diviness ヲイヒ、Anaximenes 又 air ニ之ヲ許セリ。而シテ彼ノ之ヲ説キシ理ハ、ur ナル点、moving ナル点、等ニアリ。而シテ Herak fire ニ divine character ヲ許シ、ハ、god takes various shape gust as fire (36)、The dry soul is the wisest & best (74-76) God is intelligent fire (Hpp.phil) 等ニ明ケシ。而モコノ外ニ Herakleitos ニ於イテ fire ノ diviness ヲトキシ主ナル理由ヲナスモノハ、前ノ persistency ノ場合ニオケルト同シク Ordnung トシテノ intelligency ナリ。“This order (κοσμος), which is the same in all things, no one of gods or men has made ; but it was ever, is now, or ever shall be an everliving fire, fixed measures of it kindling & fixed measure of going out” (20)

d/要スルニ大躰ニ於イテ miletos 派在来ノ Urstoff ノ概念ニシテ、タ、

- 1、exchange トイフ点ニ於イテ、qualitative permanency ノ性質ニカナハサルコト。
 - 2、ソノ persistency、divine character ニ於イテ、Ordnung トイフ特色ヲ有セルコト、
- 二点ニ於イテ milesian ノ思想ノ circle 以上ニイテタリ。

II 流転変化 (flux、change) ノ思想

e/万物ノ流転変化已マサルヲ説ケルハ、彼ノ思想ノ凡テノ方面ニ遍通シテ説カレタルコト、fire ト同シ。而シテ Fragment 中コノ思想ニ及ヘルモノ約13、passages ハ Plato ヲハシメ Aristoteles、Simplicius 等多ク見ユ。

f/万物流転シテ止マルモノナシ (πάντα χωρεῖ καὶ οὐδὲν μένει) ノ明文ハ fragment ニナク、之ヲ言ヘルハ、Plato (Cratylus, Theaet.) ヲ主トシテ、Arist.、Slyppolytes 等イツレニモ見ユ。Fragment 中、コノ思想ヲ最モ明カニ直接的ニ言表ハセルハ、有名ナル流水ノ比喩ナリ。曰ク、“You could not step twice in the same rivers, for other & yet others are ever flowing one” (41-42)、“In the same rivers we stay & we do not stay, we are & we are not” (81)、ソノ他前述ノ如ク Urstoff ノ transformation トシテ、又 earth、sea 等ノ cosmological life ト death 等、人間等ノ事実ノ correlation トシテ change ヲトケリ。

g/万物ノ流転ヲ説ケルハ、ヤカテ万物ノ motion ヲ説ケルニテ、motion トハ miletos 派在来ノ一般的思想ナリ。Thales ガ water ヲ Urstoff トシタルモ、ソノ changeable ノ性質ヲ有スル故ナリト解セラル。Anaximander τό ἄπειρον ノ運動ヲ以テ万物ヲ説明シ、Anaximenes 又同シ。Aristoteles ガ “he argued with most thinkers in holding that things are in motion” (De anima) ト言ヘル如ク、Herak. 又コノ同シ思潮ヲウケタル也。

h/然ラハ Herakl ノ change ノ思想ヲ milesian idea ニ比較スレハ如何ナル。是ニ於イテ Characteristic ヲ認ムヘキカトイヘバ、之ヲソノ exchange ノ思想ニ求メウベシ。曰ク、All things are exchanged for fire, & fire for all things. as wares are exchanged for gold & gold for wares. (22) ト、コノ Fragment ノ quellen ハ Plutarch ヲ主トシテ Philo, Diogenes, Laetius 等ナリ。

コノ fragment ノ original form ナリヤ否ヤハ、疑ハルレト、exchange ἀμειβοῦσθαιハ original ト言ハル。Diels ハ Umsatz findet wechselweise statt des Alles gegen das Feuer……ト訳シ、Zeller ハ umgetauschen ト訳セリ。

i/コノ exchange ハ Anaximandros ガ qualitative change ノ意味ヲウケテサラニ徹底的トナレルモノニシテ Fire lives in the death of earth (25)、For to soul it is death to become water

(65) トイヘル如ク、一ガ全ク他ニカハル也。而シテ元来彼ガ Anaximenes ノ如ク Urstoff, qualitative change ヲモ考ヘシ形跡ハ、Fire is the first principle of all things, it is subject to rarefaction & condensation, the one active, the other passive, the one synthetic, the other analytic. Herm ノ如ク存セドモ、彼ノ特質ハムシロ之ニアリ。

而シテコノ exchange ノ意ヲ更ニ明察ニ示セルモノハ Change as measure for measure ノ意ナリ。金ハソノ相当スル物品ニ取カヘラルル也。又曰ク、the earth is poured out as sea & measures the same a mount as existed before it become earth ト、要スルニソノ flux ノ思想ニ於イテモ、universal テフ彼ノ思想全汎ノ通性、more increasing テフ社会ノ差ヲソソイテハ、ソハ wesen ニ於イテ miletos ノ motion ニシテ、タ、コノ exchange (measure for measure) ニソノ特色ヲ有スル也。

III Harmony of opposite – gesetz

j / 自然人事ニワタリテ相對シ、相反對セル動的モシクハ靜的ノ現象ノ調和歸一ヲトキ、ソ点^[ママ]ニ gesetz ヲ認メタル思想ハ、彼ニ於イテ最モ有力ナル思想ナリ。従ツテコノ思想ニ關スル Fragment ハ最モ多ク、約三五ヲ数ヘ得ヘシ。passages 又 Aristoteles ヲ主トシテ Theophrastos, Herm, Aetius 等ニイヅ。

k / opposites ノ二作用ヲ説キシ思想ハ希臘思想史極メテ古ク、Old tradition ノ Ourannos & gaia ノ思想、Hesiod ノ chaos & Eros ノ思想、Anaximander ノ separating out opposites Anaximenes / rarefaction & condensation ノ作用アリ。Harmony テフ思想ハ Pythagorean ニ著キ特色ニシテ、Pythagoras ソノ人ニヨリテモトカレタルヘシトセラル。

Herak ガ或ハコレヲ suggestion ヲウケシヤハ想像シエサルニアラサレト、Herak ノ思想ハソノ嚴格ニシテ深刻ナル点ニ於イテ、コノ点ニ於イテ originality ヲ認ムヘキモノ也。従ツテコノ点ニ於イテハ、predecessors トシテ彼ト比較スヘキ必要アルモノナシ。

L / 彼ノ Harmony ノ思想ハ諸々ノ意味ニ於イテ説カレ、タトヘハ opposites, strife, alternation, exchange, relativity, order, god 等ノ相反對シ相争ヘルコトノナカテ万物存在ノ所以ヲ為セルコトヲ言ヒ、strife ヤ opposition、destructive ナラスシテ constructive ナルコトヲ言ヘルモノ、即チ dynamic harmony ヲ説ケルモノ也。コノ思想ノ最モ代表的ニ言表セルハ、Homer was wrong in saying : would that strife might perish from among gods & men! He did not see that he was praying for the destruction of the universe, for if his prayer were heard, all things pass away. (43) It is opposition brings thing together (46)、更ニ方面ヨリ説カレタ。今之ヲ 1 / dynamic、2 / static、3 / universal ノ三ツニ分ケテ述ヘム。

1 / dynamic

反對セル勢力ニヨリテ万物ノ progress スルヲ説ケルモノ

(a) Strife

43. Herakleitos blamed Homer for saying : would that strife might perish from among gods & men! For then, said he, all things pass away.

44. War is father of all & king of all ; & some he made gods some men, some slave & some free. 又

62. We must know that war is the common & justice is strife & that all things come into being

& pass away through strife.

(b) alternation

万物ノ反対ヨリ反対ニ対シテ畢竟 harmonius process ヲナスコトヲイヘルモノ

39. Cool things become warm, the warm grows cool ; the wet dries, the parched becomes wet.

78. Life & death, & waking & sleeping, & youth & old age, are the same ; for the latter change & are the former, & the former change back to the latter.

(c) exchange (measure for measure)

相互ニ相変化シテ、ソノ間ニ measure for measure ノ関係存スルモノ

22. All things are exchanged for fire, & fire for all things ; as ware are exchanged for gold, & gold for wares.

23. (The earth) is poured out as sea, & measures the same amount as existed before & became earth.

69. Upward, downward, the way is one of the same.

70. Beginning & end are common (to both way)

(2) static

必スシモ dynamic ノ意味テナクシテ、反対ノウチニ Harmony ノ内在スルヲイヘルモノ

(a) opposition

45. Men do not understand how that which draws apart agrees with itself; harmony lies in the bending back, as for instance of the bow & of the lyre.

50. For woolcorders the straight & the crooked path is one & the same.

(b) Relativity

価値ノ相対的ニシテ善悪美醜同一ナルヲイヘルモノ

51. Asses would rather have refuse than gold.

52. The sea is the purest & the foulest water; it is drinkable & healthful for fishes ; but for men it is unfit to drink & hurtful.

57. Good & bad are the same.

97. Man is called a baby god, ever as a child is by man.

(3) Universal

前ニノヘシ諸方面ノ全汎ニワタリサラニ根本的ニ宇宙ノ実相ヲ harmony ト説キシモノ

(a) order トシテ

This order, the same for all things, no one of gods or men has made, but it always was, & is, & ever shall be, an ever living fire, kindling according fixed measure, & extinguished according to fixed measure.

(b) as God

Herak. ハコノ harmony ヲ又 God トシテ考ヘタ。コレ彼ノ harmony ノ思想ノ最モ根本的ノモノデアアル。

元来彼ノ God テフ考ヘニハ fragment ニ現ハレタトコロニヨレハ三種ノモノガアツタ。

(ソノ 1) 第一ハ多ク Gods トイフ複数ノ形テノヘラレタモノテ即チ 102. Gods & men honour these who are slain in Battle ノ Fragment ニ見エタ如キデ、コレハ当時ノ popular ノ Gods テア

ル。コレハコ、ニ関係カナイ。

(b, 2) 第二ノ彼独特ノ Harmony トシテノ Gods ハ即チ相対 (モシクハ反対) ニ対スル absolute being トシテノ Gods デアル。而シテ之ヲ

36. God is day & night, winter & summer, war & peace, satiety & hunger; but he assumes different forms, just as when incense is mingled with incense : every one gives him the name ^{〔ママ〕} he please.

ノ fragment ニヨレハ、ソハ Change ソノモノヲ重キヲオイテ言ツタモノトモ云ヘルカ、然シ更ニ

61. God, ordering things as they ought to be, perfects all things is the Harmony of the whole, as Herak says that) for god all things are fair & good & just, but men supposes that some are ^{〔ママ〕} unjust & others just.

98. And does not H, whom you bring forward, say this very thing, that the wisest of men will appear as an ape before God, both in wisdom & in beauty and in all other respects ?

等ニ徴スルト、ソノ relativity ノ思想ノ根抵ニ grunblich ノ being トシテ、自カラ unfeuer ノ思想ヲ超越シタ (タトヒ全ク脱セストモ) 思想カアツタコトハ疑フヘクモナイ。而シテコノ God ノ思想ハ彼ノ Harmony ノ思想ノ Grown デアル。

第三章 彼ノ思想ノ relation トソノ wissenlich ノ思想

L / 以上三ツノ主ナ思想ヲトリイテ、之ヲ分析的ニ考ヘタガ、シカシモトヨリ彼ニオイテコノ三ツノ思想ハ大体ニ於イテ三ニシテ一、一ニシテ三トイフ inner relation ヲ有スル。イハ、コノ三ツハ彼ニ於イテ Trinity ヲナセル思想テアル。Feuer ヲ Urstoff トセルハ change トイフ考ヘニ一致セル故テアリ、change トイフモ、ソノ内容ハ harmony of opposits ^{〔ママ〕} テアル。シカモソノ間ニ wesentlich ノ position ヲ占ムル思想カアル。コレハ何テアルカトイヘハ、Harmony of opposite ノ思想テアル。コレヲ以上ノ分析ノ結果カラ論証スル。

M / 第一ニ Feuer ノ思想ハ ordung ノトシテ、change ノ思想ハ exchange トシテ、ソノ originality ヲ有シ、コノ両者ハ即チ Harmony of opposite ノ思想ニ帰一セラルコト

第二ニ Feuer ノ思想ハ Change ノ思想ヲ cover シ、harmony ノ思想ノ一部ヲ cover スルニモカ、ハラス、harmony ノ思想ノ最モ主ナルモノナル relativity、God ノ思想ヲ cover シエス、Change ノ思想ニ於イテモ同様ナルコト。而シテ之ニ反シテ Harmony ノ思想ハ両思想ヲ cover シテ、サラニソレ以上根本的意義ヲ有スルコト。

第三ニ已ニ fire ノ persistency ヲ論スル時ニ論シ及ンタ如ク、彼ニオイテハ Urstaff トシテノ fire ト exchange トシテノソノ変化トノ間ニ明ラカニ思想上ノ矛盾ガアル。之ハ Windelband カソノ古代哲学史ニ Die exzeptionelle schwierigkeit dissés Gedankenverhältnisses トヨンテ、Her ノ Dunkel トヨハレタ故、コ、ニアラウトナシタ (35) 所テアル。而シテ彼ハコ、ニ抽象ト具象ト、anschaulich ト Symbolish トノ混合カ存シタトナシ、終ニ ἀρχη ノ意味カ彼ニ於イテハ、milletos 派ノモノト全然別ニナツタトナシテキル。併シナカラ彼ニ一方ニ fire ノ persistency ノ考ノアルノハ否定スルコトガ出来ヌ。コノ矛盾ノ存在ハ、吾人ニヨレバ fire モ change モトモニ彼ニ於イテ wesentlich ノ思想テナクテ、ソノ中心的思想トシテ Harmony ノ思想カアリ、コノ思想ニ支持サレテ彼ノ思想ノウチニ共存シテキタト解スヘキテアル。

N / 以上ノ理由ヲ以テ吾人ハ彼ガ或ハ This truth, though it always exists, men do not

understand. (2) トイヒ much learning does not teach one to have understanding. (16) Eyes & ears are bad witnesses for men, since their souls lack understanding (4) トイヒテ、ソノ insight ニホコリシ思想ハ、彼ニオイテ最モ original ニシテ最モ comprehensive ナルコノ所謂 nature loves to hide (10) テフ、hidden harmony (49)、又ハ the most beautiful harmony トイヒシコノ思想ナリトナス。而シテコノ思想ガ彼ノ fundamental thought ナルコトハ、夙ニ Philo 之ヲイヒ、近クハ Burnett モ之ヲ the discovery of H (144) トシテ之ヲトキ、Kühnemann モソノ Grundlehren der Philosophie 1899. ノウチニ、後世彼ノ説ハ万物流転ノ説ニアリト考ヘラレテキルガ、サラニ深く考ヘルニ然ラスシテ、彼ノ inneren Erfahrung カラ出発シテ、彼ニ於イテ verfeinert サレタ思想ハ ständigen Vorübergehen ノ思想テナクテ、コノ反対ノ一致ニアリトシ、Die Gegensätze auseinander halten, das ist das erste Bedürfnis des Deukens. Hier ist daher der Punkt der sehärfsten Opposition des Heraklit. hier der entscheidende Bewusstsein seines Ankämpfens gegen die gewöhnlich geglaubte Welt ; hier – sein eigenster Gedanke, der engste, innerlichste Kreis im Vergleich zu dem alle anderen nur verblassende Verallgemeinerungen in zweiter oder dritter Linie sind.

Damit stehen wir bei den ersten Bildungspunkt und in der letzten Individualität seines Gedankens.

Die Harmonie der Gegensätze, als das einheitlich bestimmende Gesetz der ewig fließenden Erscheinungen gedacht, ist also die innerlichste Idee des Heraklit ト言ツテ吾人ト同ジ見解ヲノヘテラル。

第四章 Zeller 等の見解ノ批評－結論

O／然ルニ Kühnemann ノ言トシテ已ニ紹介シタコロニモアル如ク、後世彼ノ説ノ主ナ思想ハ万物流転ノ説ト考ヘラレテキル傾向カアル。而シテ近世ノ主ナル史家ノウチニモ自然コノ立場ニタツテ彼ヲ解釈シテキルモノガアル。Windelband ノ如キモ之テアルトシ、彼ハ Der Satz von der absoluten u rastlosen Veränderlichkeit aller Dinge gilt schon in Altertum als der Kern des Herakletismus トナシ、ist damit zugleich die kehrseite der Behauptung gegeben : die Leugnung des bleibenden Seins トナシ、之ヲ parmenedes ノ Sein ノ説ト対シ、miletos 派 Naturphilosophen ノ後ニ、Der metaphysische Grundgegensatz トシテ両者ヲ説イテキル。彼ガ fire ヲ ἀρχή テアリナカラ、miletos 派在来ノ Urstoff ト全ク異ルトナシ、Urstoff ト変化トイフニ觀念ノ思想関係ニ Die exzeptionelle Schwierigkeit ヲ認メサルヲエナカッタノモ、ムシロコノ解釈ノ自然ノ結果デアル。

P／Ioniren ハ Physik, Pythagoreeren ハ Ethik Eleaten or Dialektik 而シテ Sophisten ハコレヲノ瓦解テアル。在来ノ解釈ヲカフシテ vorkratische Phil. ノ凡テハ ihrem Inhalt u. zweck nach Naturphilosophie テアルコトヲトキ、phytagorean ノ zahl モ Eleaten ノ Seiende モ materialistisch テアルトナシ、Ionien カラ phytagorean ヲ経テ Eleaten マテヲヒトシク urstoff ヲ究メ、werden ノ Möglichkeit ヲ問題トシター系思潮トナシ、Werden ト Vielheit トヲ否定シタ Eleaten テ Vorganger ノ unbeweisene Voraussetzung ヲ承認シテ、コノ思想ヲユク所マテユカシメタトナシタ。Zeller ハコ、ニ於イテ、Heraklit ニ於イテ哲学ノ neue Wendung カハシマツタ、即チコノ前三者ニ対シテ、殊ニ älteren Ioniern ニ対シテ Heraklit ハ他ノ Empedokles,

Anaxagoras, Atomisten ヲ follower トシテ新シイ思想ノ系統ヲ開イタノテアル。即チ Heraklit ハ Eleasen ノ Seiende ノ思想ニ反対シテ、事物ノ festen Bestand ヲ否定シ、Werden ヲ説イタノテアルトナシ、Heraklit マツ Werden ノ法ヲ無条件的ノ Gesetz トシテトキ、Empedokles, Atomisten ハ更ニ Werden ノ Begriff ヲ十分研究シテ、Stoff ノ結合分離トイフ觀念ニ入ルニ至ツタトナシタ。

カクノ如クニシテ Zeller ニトツテハ、Heraklit ノ哲学ノ wesen ハソノ Eleaten ノ bleibende Seiende ヲ否定シテ万物ノ統制ヲトイタ点ニアルト考ヘタ。

而シテコノ立場カラ説カレタ Zeller ノ Heraklit 哲学ノ Darstellung ハモトヨリ brillant ノモノテハルガ、ソノマツ Fluss aller Dinge ノ説ヲ説キ、次ニソノ metaphysische Satz ノ physikalische Anschauung トシテ Feuer ノ觀念ヲトキ、コノ兩觀念ノイツレカ他ノモノ、Grund ナリヤノ問ニ対シテハ、前者カ後者ヨリ生セシニハアラテ、後者ガ前者ヨリ生セシナリト、即チ万物流転ハ彼ニトツテハ事実ニシテ、Feuer カ世界ノ Urstoff ナリトノ命題ハ単ニ現象ノ原因ニ関スル Aussage テアルトナシタ。コノ説明ハ極メテ巧妙テアルガ、Herakleitos ノ Feuer ハ underlying substance トシテノ意義 (22,26) 而シテ又 divion stoff (dry, —wet ニ対スル) トシテノ意義ガアル。コノ点ハ彼ニ於イテモ Windelband カ難点トイヘル如ク説明サレテヲラス。

第二ニ万物流転説ヨリ Harmony ノ説ヲ説キ出スノガ極メテ曖昧テアル。彼ハ単ニ Aus den Fluss aller Dinge folgt nun, dass alles ohne Ausnahme entgegengesetzte Bestimmungen in sich vereinigt. Jede Veränderung ist ein Uebergang von einem Zustand in einen Entgegengesetzten; wenn alles sich verändert & nur in dieser Veränderung existiert, so ist alles ein Mittleres zwischen Entgegengesetztem, und welchen Punkt man im Fluss des Werdens ergreifen mag, immer hat man nur einen Übergangs-und Grenzpunkt, in welchem entgegengesetzte Eigenschaften und Zustände sich berühren. Wie daher alles, nach Heraklit, unaufhörlich in Umwandlung begriffen ist, so hat auch alles jederzeit Entgegengesetztes an sich, es ist und ist zugleich auch nicht, und es kann von keinem Ding irgend etwas ausgesagt werden, dessen Gegenteil ihm nicht ebenfalls und gleichzeitig zukäme. トナシタ。

カクノ如キ解釈ガ、Zeller 自ラノ所謂 vorsokratisch テナイコトハ明ラカデアル。カクノ如キ解釈ハ全然抽象的ノ議論テ、到底彼ノ Fragment ノ實際ニ適用シエナイ。

コノ点カラシテ、Zeller ノ万物流転ヲ Wesen トシタ解釈ハ到底承認スヘクモナイ。Q/併モ彼等ガカクノ如キ解釈ニハ、ソノ由来カアル。元来万物流転ヲ Heraklit ノ思想トシテ重キヲオキシハ、Plato ナリ。Πάντα ῥεῖ の語、已ニ彼ノ Fragment ナラテ、Plato ノ Kratylus ニ出ツ。而シテ殊ニ彼ハ之ヲ Cratylus (439-440)、ソノ之ヲ Protagoras ノ Teatet (15 2 E) 等ニツイテ見ルニ、subjectivism relativism ノ思想ト結合シ Flux ヲトクハ、Protagoras ノ懷疑説ヲ Heraklit ノ思想ノ結論トシテトイフ。彼ノ所謂現象的ニ対スル説明（一方ニ Elea, Seiende ノ思想ヲ本體ニ適用センニ対シテ）トシテ解シタルナリ。而シテ之ニ反シテ Harmony of opposites ノ思想ニ至リテハ、Plato ハ之ヲ Phaedo ノ靈魂不滅ノ不完全ナル証拠ニ用キヌ。Sym.187ニハ Erysichanos ノ言トシテ、Harmony is the reconciliation, not of opposite elements, but of elements which disagreed once, and are now harmonized ノ意ヲイヒ、But what he probably meant was, that harmony is composed of differing notes of higher or lower pitch which disagreed once, but are now reconciled by the art of music; — for it the higher & lower notes

still disagreed, where could he no harmony, – clearly not.

コレ Herak ノ真意ナルヘシトイウテキル。前者ハ Harmony as change ノ意ニ解シタモノテアリ、後者ハ common sense ノ解釈デ、両者トモニ Her. ノ opppsites of H ノ真意ヲ cover シテオラス。

Aristteles 及び彼ノ注釈者モ又 flux ノ方面ヲ platonic ニ解シ、Met XII. 4 1078 b.12 For the doctrine of ideals is held by its supporters because they are convinced by H's words in regard to the truth, what all things perceived by the senses are always in a state Flux ; so what if there is to be a science & a knowledge of anything, it is necessary to assume the existence of other objects in nature heseles those that are perceived by sense, for these can be no science of things in a stake of flux. ト言ヒ、Fopica All things are in motion, according to H. トナシ、之ニ対シテ Harmony of opposition ノ説ニ対シテハ、Sats des winderspruches ニ反対スルトナシ、“For it is impossible for anyone to believe the same thing to be or not to be, as some think says ; for what a man says he does not necessarily believe” ト言ツテ居ル。

R／而シテ Her. ガ Plato, Arist ニヨツテカク解セラレタトイフコトハ、ヤカテ Her ノ説ノ希臘哲学史ニオケル意義ヲ定ムルモノテアラネハナラス。Zeller 等ノ解釈カ Her ノ Werden ノ思想ニ重キヲオクノハ、自ラコ、ニ原因シ、マタコ、ニソノ意義ヲ有スル。シカシナカラ同時ニ又 Plato, Arist ハ決シテ史家テナカッタ。彼等ノ Her ノ解釈ハ之ヲ Her ノ wesen ヲトラヘタモノト言ヒエヌ。殊ニ Plato ニ於イテハ、Herak ヨリハムシロ当時ノ Her 末派ニツイテ説イタ傾カアルトサレル。コ、ニ於イテカ P.A. ガカクノ如ク解釈カアリトテ、吾人ハ決シテ吾人ノ monographical ノ研究ノ結論ヲ動カスコトハ出来ヌ。而シテコノアル思想家ノ哲学思想ノ発展上ニ於ケル論理的意義トソノ monographical ノ意義トカ、往々ニシテカク一致セサルコトカアルコトハ、哲学史上ノ興味アル事実テ、コノ背馳ヲイカニ考フヘキカハ、コレヲ後日ニユツルコトトスル。

モシソレコノ反対ノ一致トイフ思想ニイタツテハ、久シク顧ミラレス、後ニ Bruno, ヤ Nicolaus Cusanus ニ至ツテ Coincidentia oppositorum ノ思想トナツテ現ハレ (ソノ H トノ實際的關係ハ別)、サラニ Hegel ニイタツテハサラニ dass er die Einheit der Gegensätze, die Identität von Sein und Nichtsein zuerst erkannt u. zur Grundlage seines Systems gemacht habe ト考ヘラレタ。

Bruno ヤ Cusanus ノ思想ハ必スシモ Her. ノ思想ニトレホトノ史的關係カアルカハ覺束ナク、Hegel ノ解釈ニイタツテハ例ノ subjective ノ傾向カカツテキル。サナガラ吾人ノ従ヒウルモノテナイ。然シナカラコレハ哲学史上ニオケルコノ Hegel ノ wesentlich ノ思想ノ底流トシテ注意スヘキニタリル。

要スルニ衆語一般ノ学者ヲノ、シテテ孤高自ラタカク標置シタ Herak ノ思想ハ少クトモ希臘哲学史ニ於イテハ、彼ノ当時ニオケルカ如ク、ソノ後ノ発展上ニモ永ク dunkel タル運命ヲ有シタノテアル。